

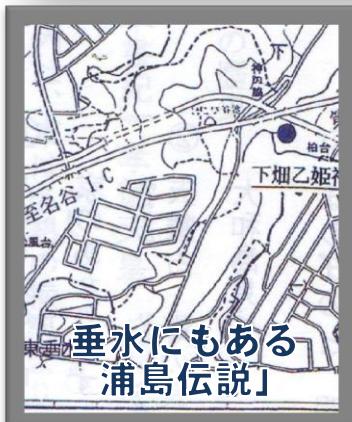


§26 下畠乙姫神社の浦島物語

前述の播磨風土記逸文と同じ丹後風土記逸文には『浦嶼子』として「浦島物語」が載っています。

「助けた亀に乗せられて龍宮に行き、乙姫と楽しい日々を送つていて、故郷に帰つて来ると数十年経つていた」と云うもので、童謡でも有名な日本のおとぎ話です。

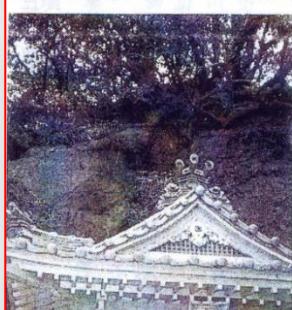
この説話は、木曾川の「寝覚めの床」や、横浜など全国各地にあり、東南アジアにもあります。この垂水の下畠にもある



現在も、鳥居の額は「龍宮城」になつていて、神殿には「乙姫神社」の額がかかっています。この下畠の浦島物語は、この乙姫神社の北の「鯛とり山」（地名現存）で浦島太郎が大きな鯛を釣り、その鯛を助けて龍宮城に行き、この大きな岩の上で目を覚ましたーと云うものです。

この神社の御神体は乙姫神社の裏の大きな岩盤です。この岩に大歳神（45ページ参照）が宿っていると昭和三十五年に、神明バイパス道路（旧神明）が建設された時も、この岩盤は神さんが宿っているーと少し迂回させましたので、乙姫神社は残つたのです。

下畠の第二神明道路橋の下にある巨大砂岩巖を御神体にした乙姫神社



§26